



団体紹介

「人をつなぎ、地域をつなぎ、困り事、孤立、困窮への支援の輪を広げて！」



昭和57年2月に「社会福祉法人みどの福祉会」発足。認定こども園、子育て支援センター、学童クラブ、通所介護、居宅介護支援センター、高齢者あんしんセンターなどの事業に加え、「地域貢献事業」として、フードバンク、こども食堂、無料学習支援、制服バンク・なんでも福祉相談などの取り組みを展開し、その中でも、特に目を引くのが、「家庭訪問型子育て支援 ホームスタート・しんまち」の活動である。みどの福祉会の「地域貢献事業」では、多世代に渡る包括的な支援に取り組んでいます。

インタビュー

地域貢献事業部 代表 丸茂ひろみさん

“ひとりぼっちをつくらない”地域のおせっかいおばさんになる！

神奈川県出身の丸茂ひろみさんは、神奈川県内の児童養護施設や児童相談所での勤務経験を経て、結婚を機に、群馬県に移住し、これまでの経験を活かしながら、現)認定こども園での仕事に従事されたそうです。

現)認定こども園に通う子どもたちは、「お迎えが来るって幸せなこと。」と率直に感じる反面、これまでの児童養護施設や児童相談所での経験を振り返ると、「幸せな子どもばかりじゃない。」とも思ったそうです。相談窓口に行きづらい、専門家に話すほどでもない、ひとりで不安という子育て中の方はおられると思っていたので、家庭訪問できる「ホームスタート」の仕組みに共感し、「大丈夫だよ。」と伝えたいと思ったそうです。現在は、通所介護の管理者として勤務し、一人の方を支えるために多職種連携による仕組みがあるが、子どもの分野ではケアマネのような存在は確立されていないようです。そこで、0歳から100歳までの保育、介護を含む多くの困りごとを抱えている方を包括的に支える必要があると考えているそうです。例えば、不登校児やヤングケアラー、発達障害児者、生活困窮者にとって、身近にいるおせっかいおばさんが増えて、居場所があれば、ひとりぼっちが減り、支え合う地域が育つのではないかと考えているそうです。



主な取り組み

地域の親が「孤育て」から、楽しめる「子育て」になりますように！

家庭訪問型子育て支援「ホームスタート」とは、子育てに不安や悩みを抱える保護者に「傾聴」と「協働」で寄り添うことで、エンパワメントされていく活動で、オーガナイザー研修を受けた丸茂さんが、まず主訴を聞き取り、養成講座を修了した子育て経験のあるボランティアが訪問します。家事や散歩、買い物なども一緒に行うところは、預かり支援をするヘルパーとは、大きく違うところで



認定NPO法人ホームスタート・ジャパンは、東京に事務局があり、32都道府県120地域で活動しています。群馬県で初めて立ち上げた、みどの福祉会でしたが、現在は5か所の法人で行っています。困りごととは重なり合っていることも多いので、家庭丸ごと支援できる機会でもあると考えており、必要性があれば関係機関につなぐこともあります。子育てに自信を失い、虐待するには至っていないが、ギリギリの気持ちで誰にもSOSを出せない親の声が聞こえてくることもあります。乳幼児から対象でしたが、切れ目のない子育て支援を考えると、初産婦から学齢児家庭までに拡張し、ホームスタート・ジャパンでは新たな研修も行っています。産後うつ等の症状に誰からも気づいてもらえず誰にも言えなかったという母親にも出会いましたが、「大丈夫だよ。」という声掛けだけでホッとできたそうです。ホームスタートは、訪問終了後に充足度を聞いています。9割の家庭で悩みが軽減されているというデータもあります。



お問合せ等

相談したい。参加したい。協力したい。「社会福祉法人みどの福祉会」情報

お伺いすると、ご利用者の元気な声、きめ細かい気配りをする介護職員の皆さん。とても明るく活気ある雰囲気を感じながら、館内の案内をしていただきました。また、併設するステキな雰囲気の「つむぎハウス café faden」では、高校生から地域のご高齢の方々まで、多世代交流の拠点にもなっています。丸茂さんは、今あるモノや仕組みなど、全ての事々を紡ぐように次々と活動を広げています。詳しくは、「社会福祉法人みどの福祉会」のInstagramをご覧ください。



みどの福祉会HP



@HIROMI_MARUMO